

No.	感染症(PT)	出典	概要
89	インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第4週	2006年第4週のインフルエンザの定点あたり報告数は32.4(報告数151,878例)となり増加が続いている。分離報告の殆どはA型(99.7%)である。流行は西日本から東日本に広がっている。今後患者数が増加する可能性があり、注意を要する。
90	インフルエンザ	Science 2005; 310: 28-29	米国の研究チームは、1918年に大流行したインフルエンザ(スペイン風邪)で死亡した患者の肺組織から1918ウイルスを復活させた。1918ウイルスはマウスおよびニワトリ胚で致死性を示し、ヒト気管支上皮細胞で高成長型表現型を示した。1918ウイルスの増殖機構を調べることで、新しい抗ウイルス薬の開発に役立つであろう。
91	トリインフルエンザ	CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。
92	トリインフルエンザ	CDC 2006年1月10日 http://www.cdc.gov/flu	2003年末から2004年の初めにアジアの8カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)において家禽で鳥インフルエンザH5N1が流行し、100万羽以上の鳥が死亡または処分された。その後、マレーシア、モンゴル、ロシア、トルコ、ルーマニア、ウクライナでも家禽での鳥インフルエンザH5N1感染が報告されている。1997年以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトでの感染例が報告されている。2006年1月7日現在、鳥インフルエンザH5N1のヒトでの感染例は、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、トルコで報告され、WHOによると2004年1月以降で140例以上になる。現在、H5N1ワクチンが開発中である。
93	トリインフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第2週	トルコの国立インフルエンザセンターは新たにトリインフルエンザ患者を確認し、2006年1月16日時点で患者数は20例(内死亡4例)となった。ウイルス解析により、ウイルスの遺伝子配列に3箇所の変異を確認した。この変異のうちの少なくとも2箇所はウイルスがヒトへの感染しやすいように働く可能性があると言及している。
94	トリインフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第3週	2003年に始まった一連のH5N1インフルエンザの国別確定症例数と死亡数。感染地域が徐々に拡大し、ヒトへの感染報告数も徐々に増加している。
95	トリインフルエンザ	J Infect Dis 2005; 192: 1318-1322	1999年から2003年に養鶏場労働者から集めた血清検体983例を分析し、イタリアで流行したインフルエンザの原因となったトリインフルエンザウイルスについて調べた。低病原性トリインフルエンザH7N3ウイルスが流行した2003年に集められた検体の3.8%で抗H7N3抗体および高病原性インフルエンザH7N1に対する抗体である抗H7N1抗体の両方が検出された。
96	トリインフルエンザ	J Virol 2005; 79: 11788-11800	2004年にアジアでヒトから分離されたトリインフルエンザH5N1ウイルスは、マウスおよびフェレットで高い致死率を示したが、トリから分離されたH5N1ウイルスは高い致死率を示さなかった。フェレットにおいて、2004年ヒト分離H5N1ウイルスは、1997年ヒト分離H5N1ウイルスと比べ、症状の急速な悪化、高い致死率を示した。
97	トリインフルエンザ	Lancet 2006; 367: 84	中国本土で初めて、A型トリインフルエンザウイルス(H5N1)のヒト感染症例が確認された。2005年10月8日に発症した12歳少女は、9日後に死亡した。弟の9歳少年は発症したが、回復した。村では家禽が9月から死に始めており、患者の家でも飼っていたことから、家禽からのウイルス感染とみられる。

No.	感染症(PT)	出典	概要
98	トリインフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
99	トリインフルエンザ	OIE Disease Information 18(31) 2005年8月5日 http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM	インドネシアにおける高病原性トリインフルエンザに関するFollow-up report(2005年6月24日から8月1日まで)。2005年6月24日から7月7日に医療施設を受診した肺炎を伴う家族3例の情報を入手した。3例とも死亡した。患者の近隣地域のアヒル、ブタなどを検査したところ、トリインフルエンザ陽性例が検出された。
100	トリインフルエンザ	ProMed 20050725-0020	2005年7月25日、インドネシア当局は同国でのH5N1型インフルエンザによる初のヒト死亡例を受け、犠牲者の居住していた近隣のブタの処分を決定した。
101	トリインフルエンザ	ProMed 20051224-0094	2005年12月15日現在、中国の30の省および自治区のうち9つの地区で、さらにニワトリ、アヒル、ガチョウにおけるインフルエンザ流行が続いている。政府は1年間に飼育される140億全ての家禽類にワクチン接種を行うことを決めた。
102	トリインフルエンザ	ProMed 20051224-0094	中国で30の省および自治区のうち11月中に8地区、12月に1地区の家禽で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。
103	トリインフルエンザ	Science 2005; 309: 1206	2005年5月4日、中国西部の青海省青海湖の鳥の島で数羽のトリが死んでいるのが発見され、6月末までに1000羽以上の野鳥が罹患した。病理所見はH5N1型トリインフルエンザに感染した家禽と同じであり、複数のH5N1型トリインフルエンザウイルスが分離され、香港2004年分離株と密接な関連が認められた。渡り鳥のH5N1型トリインフルエンザ感染は潜在的な世界的脅威である。
104	トリインフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。
105	トリインフルエンザ	Virology 2005; 339: 101-109	2003年に中国から日本に輸入されたアヒル肉から、遺伝型が特異なH5N1型インフルエンザウイルスが分離された。この分離株はニワトリには高病原性を示したが、マウスには示さなかった。しかし、一度このウイルスに感染させたマウスの脳から分離したウイルスは、アミノ酸置換が起こっており、病原性を増加させた。
106	トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
107	トリインフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
108	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年7月21日	インドネシアでトリインフルエンザによるはじめての死亡例が確定した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
109	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html	中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。
110	トリインフルエンザ	鶏病研究会報 2005; 41(増刊号): 9-16	アジア各国で発生している高病原性トリインフルエンザの現時点での防疫対策は感染個体の殺処分と移動制限による封じ込めである。しかし、ゲノム解読、ナノテクノロジー等による研究の積み重ねは、確実にインフルエンザ対策に貢献していることは間違いないと考えられる。
111	トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
112	トリインフルエンザ	獣医畜産新報 2005; 1011: 849-852	現在アジアを汚染しているH5N1ウイルスは、1996年に中国広東省のガチョウ農場で最初に発見されて以来、この10年間に多くの動物種に対して病原性を高め、また宿主域を広めている。ニワトリ、水鳥(カモ、サギなど)、留鳥(カラス、スズメなど)、哺乳類(マウス、ネコ、ヒトなど)に対する病原性の推移について述べた。
113	パルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	パルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
114	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
115	マイコプラズマ肺炎	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第39週	マイコプラズマ肺炎は通年性に発生がみられるが、過去5年間では冬季にピークが見られ、またこの3年間では夏季にも小さなピークがみられている。2005年では過去5年間の同時期と比較して、常にその平均値を超える状態が続いており、第39週現在の累積報告数は、2000年以降では最高値となっている。
116	マイコプラズマ肺炎	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第40週	マイコプラズマ肺炎の第40週の定点あたり報告数は2週連続して増加し、0.37となったが2005年第1週以降では最高値となり、また、過去6年間の同週との比較でも最も多かった。
117	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年11月24日から実施されていたCDCによるドミニカ共和国アルタグラシアとドラアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告が解除されていた。
118	マラリア	J Trop Pediatr 2005; 51: 219-22	ナイジェリアの先天的マラリアの臨床的発現率、胎盤中のマラリア寄生虫の有病率についての調査結果。胎盤中のマラリアと先天的マラリアには強い相関関係がみられた。新生児では臨床症状はあまり発現しなかった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
119	リケッチア症	第54回日本感染症学会東日本地方会総会 2005年10月27日	急性Q熱54例に関して、患者背景、推定感染経路、臨床像を解析した。病型は肺炎28例、気管支炎6例、上気道炎12例、肝炎4例、不明熱3例、リンパ節炎1例で、死亡例はなかった。発症前に動物と接触した例は76%で、イヌ、ネコが多数を占めていたが、ウシ、ウサギ、シカ、ニワトリ、インコ、野鳥との接触例がみられた。
120	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会 関東支部総会 一般演題4-2	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、取り扱っていた輸入アメリカモモンガが原因であった。
121	レンサ球菌感染	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第32週	中国で流行しているブタレンサ球菌感染は8月5日以降新規患者はないと中国衛生部は報告している。ブタのインフルエンザウイルスとニパウイルスの可能性は検査により否定されている。
122	レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report Japan 2005年第32週	2005年6月頃から発生している中国でのブタレンサ球菌流行について。現時点では中国衛生部によると215名がブタに感染し、うち39名が死亡していると報告している。これまでの調査ではヒト感染の証拠は見られていない。今回の流行が最近の流行と比較してこれほど大規模であったのかについては更なる調査を必要とする。
123	レンサ球菌感染	OIE Disease Information 18(36) 2005年9月9日	中国四川省で647頭のブタがStreptococcus suis感染で死亡した。この流行病は2005年6月後半に始まり、7月20日頃ピークとなり、その後急速に減少した。抗生物質の投与、衛生状態の改善、ワクチン接種などが流行病を抑えるのに有効であった。
124	レンサ球菌感染	Science 2005; 309: 1308-1309	WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が、病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型か毒性の強い2型 serotypeかは今のところ明らかではない。
125	レンサ球菌感染	Weekly epidemiological record 2005; 80: 269-276 http://www.who.int/wer	中国衛生部は2005年8月3日に、ブタでのStreptococcus suis流行に関連した疾病がヒトで206例見られたと報告した。そのうち38例が死亡し、18例が重篤である。全例が四川省で発生し、そこでは同時期にブタでStreptococcus suis感染が流行していた。中国の疫学者によると、ヒトでの最初の発症は2005年の6月末であった。患者のほとんどが農家の成人男性であり、病気が死んだブタに接触したことが感染の原因とみられる。この件に関してWHOはさらに詳しく調査中である。
126	レンサ球菌感染	カナダ Public Health Agency 2005年10月28日 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-	2005年10月24日、香港の健康保護センターはStreptococcus suisと確定診断された症例報告を受けた。最近の旅行歴がない43歳男性で、10月13日に入院し、同日死亡した。2005年の香港における12番目の感染例である。
127	ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
128	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1848-1853	げっ歯類がハンタウイルスの感染源と考えられていたが、それ以外の感染ルートがあることが示唆された。2002年にアルゼンチンで発生したハンタウイルス肺症候群(HPS)の患者13例について分析した。その結果、前兆期またはその後の短期間に、ウイルスのヒトからヒトへの伝播が起こったと考えられた。
129	ウイルス感染	FDA/CBER 2005年10月25日 http://www.fda.gov/cber/advisory/bp/bp1105.htm	11月3日-4日開催予定のBlood Products Advisory Committee (BPAC) の会合予告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
130	ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
131	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
132	ウイルス感染	Reuters Foudation Alert Net, Newsdesk 2005年8月22日	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540例の小児の検体において17例の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
133	ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
134	感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
135	感染	HPS Weekly Report 2005; 39(2005/43): 239	Health Protection AgencyなどとHPSは「Shooting Up—英国の注射による薬物使用者における感染症(第3版)」を発表。B型・C型肝炎に加え、A型肝炎、創傷ボツリヌスおよび破傷風などのアウトブレイクが見られることなどを記載。
136	感染	MHRA Safety nformation 2005年11月24日	米国の組織調達会社BioMedical Tissue Servicesがヒト死体組織ドナーを不適切にスクリーニングし、記録も残していないことが明らかとなる。問題の組織は回収されたが、少数の製品は英国に輸出。全例が追跡可能な少数の患者に移植されていた。その追跡調査の詳細。
137	感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 744-745	2例の超未熟児が先天性Candida glabrata感染により死亡した。胎盤と臍帯には肉眼で見えるカンジダ結節はなかった。Candida albicansではない種によるカンジダ感染は壊死性の病巣をあまり産生しないため、肉眼で見える結節がないからといってカンジダ感染を除外するべきではない。
138	感染	ProMed 20050719-0010	2005年の前半中に小児4名を含む70名のライム病(新種ボレリアによる感染症)に感染したとUdmurtiya共和国感染症病院当局が発表した。一方、小児2名を含むダニ媒介性脳炎患者17名が同共和国内で2005年前半に報告された。
139	感染	ProMed 20051012-0010	南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。
140	感染	ProMed 20060108-0060	コンゴの西Kasai州で病死したブタを食べた80人以上が死亡した。肉不足のため、行政がこれを止めることは実質的に不可能である。汚染ブタは高熱と下痢で、数時間で死亡した。原因は不明である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
141	クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織にMycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
142	クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
143	コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なる方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。
144	サルモネラ	ProMed 20051002-0040	米国ウイスコンシン州Walworth郡健康局は、同郡で発生したサルモネラ感染症12例の患者のうち7例が農産物品評会に参加していたと発表した。ブタ小屋にいたことが原因と考えられたが、ブタの糞からはサルモネラ菌は検出されなかった。患者は全員回復した。
145	サルモネラ	Z Gastroenterol 2005; 43: 707-713	2004年の春から夏にかけて、ドイツの多くの州で、Salmonella enterica serovar Giveによる感染症が流行した。感染源や感染の特徴を明らかにするために調査を行った。その結果、生のブタ挽肉の消費と本感染症と相関があることが示された。ブタ肉から分離された菌株は患者から分離されたものと一致した。
146	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日 http://www.oie.int/en/info/hebdo/AIS_36	米国における小水疱性口内炎に関するFollow-up report No.27 (2005年12月19日から31日まで)。新規アウトブレイクは、コロラド州デルタ郡の農場で、ウシにおける疑い例は222例、発症例は3例である。
147	エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
148	デング熱	Blood 2005; 106(11): Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にもかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
149	デング熱	ProMed 20050819-0020	2005年ベトナム政府より、過去1ヶ月間に南部のメコンデルタ地方でデング熱患者5500名を確認し、今年の総患者数は15500名以上となり、うち17名が死亡と発表。
150	デング熱	ProMed 2005090-0020	シンガポール当局によると2005年9月時点でデング熱患者が増加しており、島での最高に達した2004年同時期に比べて2倍近い数である。8名の死亡も報告されている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
151	寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清を <i>Babesia microti</i> 抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRにより <i>Babesia microti</i> に陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
152	結核	IASR 2005; 26: 225	ニューヨーク市で2001~2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。
153	細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020例中108例(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
154	細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	<i>Bartonella alsatica</i> は野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
155	細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。分離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグララーゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。
156	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌は <i>Mycobacterium mageritense</i> と同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
157	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
158	ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性 <i>Clostridium butyricum</i> が検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めての <i>C. butyricum</i> による乳児ボツリヌス症と考えられる。
159	炭疽	ProMed 20050808-0020	中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
160	炭疽	ProMED 20050906-0060 ProMED 20050902-0050	ロシアのRostov地域で今年(2005年)3例目のブタ炭疽症例が発見された。このブタは炭疽ワクチン未接種であった。生物学的検査、顕微鏡検査、細菌学検査によって、炭疽菌感染と確定された。
161	炭疽	ProMed 20050917-0060	米国モンタナ州北東部の牧場で炭疽によりウシ37頭が死亡した。問題の牧場は2005年9月15日現在隔離されている。
162	炭疽	ProMED 20051121-0020	ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。